

施策番号 2-1-4	施策名 地域林業の推進	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり			
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化			
	主管課	農林課	課長名	手島 旭	内線	410
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
森林が持つ多面的機能の理解促進と、機能に応じた森林の整備・保全をすすめます。		町民・町有林・私有林・森林所有者	・森林が持つ多面的な機能について町民の理解を深める ・計画的な保育・造成等により森林を適正に管理する					森林の持つ多面的・公益的機能（災害防止・水源かん養・生物多様性の保全・生活環境の保全・地球温暖化防止など）が発揮される	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)	
① 森林が持つ多面的機能を知っている町民の割合	住民意識調査	%	72.1	69.2	73.4	77.0	80.0	80.0	
② 適正に管理されている町有林面積の割合	森林調査簿より	%	98.7	99.2	99.1	99.0	99.0	99.0	
③ 適正に管理されている私有林面積の割合	森林調査簿より	%	95.2	94.9	94.3	96.0	96.0	96.0	
成果指標設定の考え方	①森林が持つ多面的機能を理解したと思われる町民が急に増えるとは思われないため、当面の間は80%を目指すものとする。②すでに99.2%に達しているため、今後は限りなく100%に近い適正管理面積を目指すものとする。③後期実施計画から町有林と民間所有の私有林の適正管理面積を分割した。木材市況が不安定な状況や所有者の意向に左右される側面もあるが、啓発活動等により現状より約1%増の96%を目標に設定								

2. 施策の事業費

	26年度決算	27年度決算
施策事業費（千円）	32,897	43,956
人工数（業務量）	0.8225	0.6935

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成27年度の成果評価（前年度比較）	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	森林整備は長期にわたり実施すべきものである。単年度で飛躍的な成果向上は求められないが、今年度は「森林認証制度」や地図データ情報の予算化など総合計画後期計画の推進に向けた取組及び成果があった。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠（理由）	適正な管理に関する指標について、町有林については予算を確保し、各種計画に基づいて実施しており、目標達成しているレベルだが、私有林については労務単価の増加などによる事業費増加もあり、整備に着手できないケースが多くポイントがアップしない。森林が持つ多面的機能の町民理解については、引き続き周知・啓発活動の推進が求められると感じている。
(2) 施策の成果評価に対する平成27年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町有林管理事業 ふるさと森づくり事業 （農業振興地域計画管理事務）⇒地図情報システム	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・町有林管理事業、民有林振興事業ともに、補助制度などを活用しながら適宜、必要な造林、除伐、間伐、下刈りなどを実施した。 ・木材品質を保証し、販路拡大につながる「森林認証制度」取得に参画。消費拡大のきっかけづくりを行った。 ・長年の懸案であった地図情報のデータ化に向けた予算化が実現。農業振興地域や林班地域管理の効率的な事務推進とサービス向上を図る。 ・ふるさと森づくり事業は森林の重要性にかかる意識啓発を目的に、「町民植樹祭」「町民育樹祭」を行った。 ・近年、風雪害による支障木伐採・処理が必要な案件が増えている。すべての事案に対応できない部分もあるが、通行や農作業に支障のあるケースには迅速かつ的確に対応したと考えている。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	東日本大震災、原発事故なども踏まえて、森林の重要性や環境保全、多面的機能が再認識され始めている。町有林管理にあたっては国の予算も増加傾向であり、森林整備に取り組みやすい環境となってきたところ。ただし、民有林については、所有者の意向が最優先であり、民有林の森林整備はなかなか進まない現状である。有利な補助事業の活用に向けて、森林組合などとも連携を図りながら民有林整備を推進する活動を行っていく必要がある。また、近年の異常気象により、風害・土砂崩れなどの被害が増加傾向にある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	風雪被害について、特に農業者から早急に対応してほしいとの要望が随時ある。

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

○町有林、私有林ともに、近年の風雪による森林被害が増加している状況。労務単価の増大などにより、維持管理に関する費用が増加していく傾向にあると考える。特に私有林については、補助事業などの活用を含めて、森林所有者への周知・啓発活動を推進すべきと考えている。 ○「森林整備計画」の実実施計画である「森林経営計画」は、平成30年度からとなる新規計画の策定に向けて検討を進める。 ○森林の持つ多面的機能を周知する事業として、「植樹祭」、「育樹祭」、「昆虫観察会」を実施しているが、参加者の固定化、町有林における植樹・育樹箇所の減、昆虫観察会の手法検討などの課題があるため、周知・啓発事業の今後のあり方について、検討していきたい。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

		A	B	C	D	E
評価	成果指標にあるとおり、町有林管理事業が推進しており、施策として前進していると評価する。			○		
今後の取組に対する意見	今後も森林組合等との連携を図り民有林の環境保全を進めてほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

		A	B	C	D	E
評価	庁内評価と同じく前進したと評価する。			○		
今後の取組に対する意見	●町民意識調査で問の答えのような注釈を入れることに違和感を感じる。 ●カラ松のハバチ被害について対策を検討してほしい。 ●10線防風林の景観保全についてもっと取り組んでもらいたい。 ●植育樹祭などの機会を増やしてほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				